

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：13801

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25590263

研究課題名(和文) リスクマネジメントプロセスを援用した安全学習教材と授業案の作成及びその効果の検証

研究課題名(英文) Study materials and lesson plan for safety education which is based on risk management process

研究代表者

村越 真 (Murakoshi, Shin)

静岡大学・教育学部・教授

研究者番号：30210032

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)： 小学校の児童から大学生にいたる段階での危険認知の実態を様々な課題によって把握すると同時に、教材を用いた授業実践を行った。特にKYTシートを使った大学の授業では、リスク発見を模擬的に行う個別作業とグループワークにより授業後に熟練した指導者に近いリスクの保有傾向が認められた。また、道徳教育の視点から災害時のジレンマ状況をもとに考える授業実践および授業案の作成を行った。

日常とは異なるリスク下あるいは災害時に幼児・児童がルールに固執することなく柔軟な行動がとれることが望まれる。基礎的研究としてこの点を研究し、発達段階が低い場合ルールへの固執が起こることが示唆され、防災教育の課題と考えられた。

研究成果の概要(英文)： Risk perception and skill of risk management were investigated from primary school pupils to university students with various tasks and classroom lessons using those materials were developed. It is clarified that individual exercise and group work using KYT sheets at university lectures improved students skill of risk management to some extent. Model plans for moral education were developed using "moral dilemma". It is preferable that children flexibly adapted to the irregular situation under risk or natural disasters. As basic research, how children stick to the everyday rules was investigated and result clarified that children with low development stage tended to stick to the rules, which might be issue of disaster prevention education.

研究分野： リスクマネジメント

キーワード： KYTシート リスクマネジメント 防災道徳 ジレンマ 認知発達 慣習的ルールの理解

1. 研究開始当初の背景

学校管理下の児童/生徒の傷害のうち、休憩時間や部活動等主体的活動によるものはどの校種でも概ね50%を超える。リスクマネジメントに関わる認知的プロセスや特徴を発達の明かにすることで、危険予測や主体的な意志決定スキルが効果的に高まり、傷害を防ぐ有効な教材開発が可能になることが期待された。

2. 研究の目的

リスクマネジメントの考え方(リスクマネジメント規格活用検討会、2010)を枠組みとし、児童生徒が潜在的危険の予測や的確な意志決定に関してどのような認知的特徴や課題を有するかを発達の明かにし、その知見を元に安全学習のための教材および授業案およびその手引きを開発、その授業効果を検証する。

3. 研究の方法

(1)自然体験・学校教育場面でのKYTシート・学校の写真、その他模擬的な課題を用いて、児童から大学生に至る様々な発達段階の協力者の危険認知～リスクマネジメントスキルの特徴について明らかにする。小学校5・6年児童に対しては、非日常的である工事中の学校の写真を見せどこに危険があるかを指摘、また理由についても記述してもらった。場面ごとの選択数を学年等で比較した。KYTシートについては大学生を対象に実施。授業の一環として、危険特定、分析・評価、対応の模擬課題を個人およびグループワークで実施した。

(2)発達心理学に基づく実験課題により、幼児～大学生に至る、非日常的場面における日常的ルールや日常的権威への固執の実態を明らかにするため、個別面接や質問紙により非日常場面と日常的ルールを提示し、従うべきかどうかを明らかにした。また現実場面では、地震に対する抜き打ち避難訓練での行動観察と質問紙を2校各2回実施した。2回目では、一部のクラスに対して地震時に採るべき行動についての事前授業を行い、その効果を検討した。

(3)災害時におこりやすいジレンマ状況(下校中、年少の子どもに避難を促しに行くべきか、自分がすぐに避難すべきか)に基づく道德教材によって、日常的な判断が有効ではない場面における道德的判断・行動を高める授業実践とその効果を検討した。また年少の児童を対象として、地震時に必要な定型的行動を確実に実施できるような身体活動を伴う防災教育授業を行った。

4. 研究成果

(1)写真課題では学年差が明らかになり、6年ではやや柔軟な危険認知ができることが明らかになった。一方、KYTシートを使った模擬的な危険認知～リスクマネジメントの

授業では、授業においてリスクへの考え方を教示したりグループワークによって他者の考えを聞き、グループの意見を調整する活動によりリスク保有へとリスク対応の傾向が変化したり、日常のリスクへの意識が高まるなどの効果が認められた。

(2)児童では日常的なルールへの固執や日常的権威に基づく決まり事への固執が認められた。また避難訓練時の行動観察の結果からは、2回計4校の観察によって「(遠くても)自分の机に隠れる」という防災的には不適切な行動が顕著に認められると同時に、頭や体を守るという授業には一定の効果があることが明らかになった。

(3)防災を活用した道德授業の実践では、小学校の道德を主として、協力校で授業を多数実施し、メディアの取材を受ける、その後の継続した取り組みにつながるなどの評価を得た。これらの成果をもとに、改善につながる効果測定に係わる分析などの基礎的作業も行った。開発・改善にあたっては、欧米圏の認知的道德性の発達理論等の整理も行った。

これらの成果については、それぞれ関連学会等で報告した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 14件)

村越真・小山正人・河合美保 (印刷中)
地震に対する抜き打ち避難訓練は臨機応変な避難行動を促進するか? 安全教育研究 (査読有)

藤井基貴(2016)「防災教育と食育を通じた道德教育」『道德教育』692号、明治図書、68-71 (査読無)

中道圭人「ネガティブな情動が児童の実行機能に及ぼす影響」『教科開発学論集』4号、2016年3月、1-11頁 (査読有)

河合美保・村越真(2016) 小学校高学年児童における学校内の危険な場所の評価と特定について 教科開発学論集、4号、23-32 (査読有)

藤井基貴(2015)「これからの防災教育の考え方」『教師の広場』184号、出文、8-11 (査読無)

村越真 (2015) KYTシートによる危険予知トレーニングは、リスク特定・対応スキルを向上させるか 教科開発学論集、3号、35-46 (査読有)

村越真・山本正嘉・舟戸駿・金田朋子・渡邊雄二・山本一登・星野真則 (2015) 北

アルプスにおける登山中のヒヤリハットの実態 登山研修,30,9-17 (査読無)

藤井基貴(2015)静岡県での道徳授業、道徳教育、681,86-87。(査読無)

中村美智太郎・藤井基貴(2015)道徳教育における内容項目「自然愛」に関する基礎的研究、教科開発学論集、3,47-60。(査読有)

村越真・村松由貴(2014)静岡県の小中学校における防災教育の実態と課題 教科開発学論集、2,1-12(査読有)

村越真・渡邊雄二・東秀則・山本一登(2014)山のひやりはっと 登山研修,29,46-53。(査読無)

藤井基貴・松本光央(2014)知的障害がある児童生徒に対する防災教育の取り組み、静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、22,73-81。(査読有)

村越真、中村美智太郎、河合美保(2014)高所登山は「死と隣り合わせ」か：高所登山家のリスクの捉えとリスク対処方略を明らかにする『体育学研究』,59(2),653-672。(査読有)

藤井基貴(2014)災害哲学の教育 - 「防災道徳」授業の実践と哲学教育への可能性、「文化と哲学」静岡大学哲学会、31,21-40。(査読有)

〔学会発表〕(計7件)

藤井基貴(2016)「人間はいかにして自律的思考を形成しうるか？」超領域研究会(静岡大学、2016年3月9日)

Takashi Shimura, Motoki Fujii, A Study of Disaster Prevention Education to Develop the Ability to Think, Oral presentation, Inter-academia Asia, (Shizuoka University, 3rd December 2015.)

中道圭人・村越真・藤井基貴(2015)児童における道徳的・慣習的な違反行為の判断-日常と異なる場面での判断の発達的变化、日本教育心理学会 57 回総会(新潟朱鷺メッセ、2015年8月26日)

榊原博美・藤井基貴(2014)道徳性発達に関する研究動向 ポストコールバーグの学説史、中部教育学会(愛知教育大学、2014年6月21日)

中道圭人・村越真・藤井基貴(2014)ネガティブ情動の喚起時における児童の切り替え能力。日本教育心理学会 56 回大会(神

戸、2014年11月7日-11月9日)

藤井基貴(2013)防災道徳の教育 「防災道徳」授業の実践と哲学教育への可能性、静岡大学哲学会(招待講演)(2013.11.3、静岡大学)

藤井基貴(2013)防災道徳の授業開発と実践から、東海心理学会 62 回大会公開シンポジウム(招待講演)(静岡大学、2013.6.1)

〔図書〕(計3件)

藤井基貴(2016)「84 モラルジレンマ学習を用いた授業」ほか、貝塚茂樹・関根明伸編著『道徳教育の重要項目100』教育出版、2016年2月、全14頁。

藤井基貴(2016)「視点32 防災教育」多田高志編著『教育の今とこれからの読み解く57の視点』教育出版、2016年2月、全2頁。

村越真・長岡健一(2015)山のリスクと向き合うために：登山におけるリスクマネジメントの理論と実践 東京新聞

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村越真(MURAKOSHI, Shin)
静岡大学・教育学部・教授
研究者番号：30210032

(2) 研究分担者

藤井基貴(FUJII, Motoki)
静岡大学・教育学部・准教授
研究者番号：80512532

中道圭人 (NAKAMICHI, Keito)
静岡大学・教育学部・准教授
研究者番号：80512532